2010 年度国際経済学研究 1（シラバス詳細）　　下川雅嗣

http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/

［授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等］

国際経済をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法・視点を身につけることを重視する。現代のグローバル化のありようは、国内市場及び国際市場の自由化が中心的要素であると言われている。そこで、まず、市場の本質的メカニズム及び市場の質について深く理解することを目的とする。さらにその応用として受講生の希望により①現代の国際貿易、②昨今のサブプライム金融危機、またはそれ以外のテーマについて考察する予定である。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学 1,2 を受講すること（またはそれと同等な内容を自習すること）が強く勧められる。また国際政治経済論 1,2 を併せて受講することも強く勧められる。

［評価方法］

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容、期末試験またはタームペーパー等で総合的に評価する予定。

［共通文献購読について］

＜テキスト＞

矢野誠（2005）『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か？』岩波書店。

下川雅嗣（2007）「経済学から見たグローバリゼーション」『コスモポリス』 1, 63-68.

吉野直行、矢野誠、樋口美雄　（2009）『論争！経済危機の本質を問う：サブプライム金融危機と市場の高質化』慶応大学出版会。

＜参考文献＞

①矢野誠（2001）『ミクロ経済学の基礎』岩波書店。

→経済学を基礎からきちんとやりたい人はこの本をまず読むことをお薦め。この講義の最初の部分は、「ミクロ経済学の基礎」の内容を取り扱う。これと続編である**矢野誠著（2001）『ミクロ経済学の応用』岩波書店**の 2 冊を熟読すれば、学部レベルの経済学のすべて、及び経済学的な考え方・センスの本質はほぼ修得できる。

②クルグマン・オブズフェルド（石井・浦田・竹中他訳）『国際経済—理論と政策：Ⅰ国際貿易』第３版、新世社。←Krugman, P. R. and Obstfeld, M. (2006), *International Economics: Theory and Policy*, Seventh Edition, Addison-Wesley.

③Ray, D. (1998), *Development Economics,* Princeton University Press.→ch.16-18.

→簡潔にまとめられている。既習者が整理のために読みには役に立つ。本全体は国際政治経済学全体への開きをもった開発経済学の大学 4 年生または大学院 1 年生レベルの標準的テキスト。

＜内容及びそれぞれの本の目的、やり方＞

１）矢野誠（2005)、『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か？』 岩波書店。

→経済的側面におけるグローバリゼーションはしばしば、世界共通市場化と言われる。また所謂“新自由主義的グローバリゼーション”と言われている市場至上主義は大きな問題を持つとした反対運動も大きい。いずれにしても『市場』というものが中心的なテーマである。しかしながら、あまり市場の本質的メカニズムが何なのか、そしてその市場の質についての議論は聞かないし、多くの人はそれを理解していないように思う。ここでは、この本を輪読することによって“新自由主義的グローバリゼーション”の問題点等を考えるためにも、市場の本質的メカニズム、市場の質について理解を深め、高質な市場とは何か、高質な市場を作っていくための条件は何なのか等について考えていきたい。

ただし、この本は国内市場（しかも先進国、特にアメリカの市場の例が多い）において市場の質を論じ、また特にアメリカの市場に比べて日本の国内市場の質が低くそれを高くするためには何が必要かというようなことを中心テーマにしている。よって、読者はこの本に書かれていることを理解し、これをネタにして、途上国市場、さらには国際市場において市場の質がどうなっているのか思いを巡らせて欲しい（例えば、ＷＴＯは国際市場の質を高めているのか、低めているのか等)。

➔各パートに対して担当者（概要の説明(model の説明も行うこと)とコメンテーター（応用例の提示、問題点の指摘、討議のポイントの提示、途上国市場や国際市場での検討）を割り当てる。

➔これと並行して、経済学の基礎がない参加者には『ミクロ経済学の基礎』の１章、２章、５章、７章をやり、必要であれば全員で演習問題は行なう（希望者が多ければ高島先生と一緒にミクロサブゼミを開講の可能性あり)。

＜日程、やり方＞

下記日程は目安。進み具合はどんどんずれ込む可能性があります。

1. 4/15：イントロダクション、自己紹介、内容・進め方の決定。
2. 4/22：ミクロ経済学の基礎集中講義①（経済学の考え方、合理的選択）
3. 4/6：ミクロ経済学の基礎集中講義②（経済（モデル）分析、数学的論理）
4. 5/13：ミクロ経済学の基礎集中講義③　（消費者理論）

5,6, 5/20,27：予備：演習

※以上は、矢野『ミクロ経済学の基礎』の第１章、第２章に相当する(もし受講生が全員「国際経済学１を受講中及び受講済みであれば大部分繰り返しになるのはここはパスまたは、補足説明、質疑応答の時間にしてもよい」。受講生は以後、学部開講の国際経済学１（火曜日３限）に参加するか、この本の第５章、第７章を独習することが求められる。適宜、問題を用意し、宿題か試験を行う。

7. 6/3：矢野　　序章「21 世紀は高質な市場を求めている」
　　第１章「市場が現代経済を支える」

第２章「利益追求のための競争排除が市場の質を下げる」
8. 6/10：矢野　　第３章「競争市場が労働市場の質を下げた」
第４章「高質な競争と情報が資本市場を支える」
9. 6/17：矢野　　第５章「適切なルールが高質な市場を支える」
終章「高質な市場が育つシステムを創ろう」
10.6/24：予備：演習
11.7/１：経済学から見たグローバリゼーション①（講義）
12.7/8：経済学から見たグローバリゼーション②（講義）
13. 7/15：吉野・矢野・樋口　「はじがき」
吉野・矢野・樋口　第１章「経済学とグローバル経済危機」
14. 7/22：吉野・矢野・樋口　第２章「金融市場の高質化とは？」
吉野・矢野・樋口　第３章「アメリカ発の金融危機と金融監督の行方」

以下進み具合のよっては繰り上げして行なうか、秋学期にずれ込む可能性あり。
吉野・矢野・樋口　第３章「金融・経済危機 2007―2009：Conflicts と Complexity」
吉野・矢野・樋口　第４章「バブル発生の背景と民間資金を活用したアジアの景気回復策」
吉野・矢野・樋口　第５章「金融市場の質によせて」
吉野・矢野・樋口　第６章「不確実性下での経済活動と経済規制」
吉野・矢野・樋口　特別報告「日本財務省の視点から」
吉野・矢野・樋口　経済論争「サブプライム金融危機」
吉野・矢野・樋口　総括「金融市場の質の向上のための諸問題について」

秋学期：国際経済学究２（ケース・スタディ）ついて********

秋学期は、修士論文等執筆の中間報告を優先させて行いますが、その合間に、各自の関心のある論文やテキストを一緒に読みたいと思っています。もし春学期から継続の方が多いようでしたら春学期に終わらなかった部分も続けて読みたいと思います。また、秋学期は２年生は修論のテーマに沿って、また１年生もなんらか各自の関心がはっきりしてくるでしょうから、必ずしも国際経済学に関係せずとも、国際政治経済、貧困・開発・発展等をテーマとした本や論文でも良いかと思います。最終的には後期に集まった人の顔をみて考えます。ただし、春学期に参加して秋にも続ける予定の人の意見を重視するかもしれません。春学期の終わるころに希望があればお知らせください。後期も続けて参加したい人の意見を尊重したいと思います。